

# 大通公園 花で彩るシニア

## 札幌 ボランテニア、10年超活躍

札幌市中央区の大通公園を彩る花壇の手入れに10年以上、高齢者のボランテニアが活躍している。市民や観光客の憩いの場だけに、きれいにしてお喜ばれることが原動力になっているようだ。仲間と交流する楽しさも活動を支えている。

ボランテニア活動をして 園の花壇の手入れは2000人いるのは、シニア世代が社会参加、社会貢献する仕組みづくりを担うNPO法人「シーズネット」。大通公



大通公園の花壇の手入れをするボランティアの人たち=札幌市中央区

り、今年は38人が登録ボランティアに決まった。大通西3丁目の2カ所にある長さ24メートル、幅1.4メートルの細長い「ボーダー花壇」が活動の場だ。4月中に全員が参加して植え込みをした後は四つの班に分かれ、5～10月の毎週木曜の午前中に1～2時間、交代で手入れに精を出す。6月下旬にも全員参加での花の植え替えが予定されている。

今季、最初の手入れをする10日は、女性7人、男性2人が、赤、青紫、白、黄色の4色のパンジーを植えた花壇の前に集まった。「白い花はまだ小さいね」「人数が多いから早く終わらせよう」。花壇の前にはしゃがむと、会話を楽しみながら、枯れた花びらや葉を見極め、丁寧に取除いていった。そうすることで、より大きな株に育つのだという。作業は1時間ほどで終わった。

## 「動いていると病気忘れる」

班長で札幌市豊平区の小堤守さん(79)は、自宅の庭でも野菜などを育てている。「終わった後、みんなで食事したり、コーヒーを飲んだりするのも楽しい」と話す。班は毎年変わるため、新たな仲間との出会いもあるという。

夫を亡くして8年になる一人暮らしの女性(77)は、この活動を10年続けていく。パソコンを使う活動や畑仕事にも精神的に取り組み、「ぼろっ」としている時間はないほど」という。複数の病気を抱えるが、「動いていると忘れてしまう。いい老後を楽しんでいると思います」。

シーズネットによると、昨年参加したボランティアから「ありがとうと言われ、社会に役立つという自分を発見した」との声が寄せられた。毎年、新たな参加者を迎えるが、自身の体の不調や家族の介護といった理由から参加を取りやめる人もいる。登録者数にあまり変動はないという。

(片山健志)